

自然環境調査報告書第 8 集にあたって

菊一 敦子

(トトロのふるさと財団 調査委員会)

キーワード: 生物多様性 ; 植生 ; 水生生物 ; 鳥類

2010 年度は新たなトラスト地を 4 ケ所取得し、1991 年のトトロの森 1 号地が誕生して以来、トラスト地は 14 ケ所になった。(2011 年 2 月現在)

2010 年 10 月に愛知県の名古屋市で、生物多様性条約第 10 回締約国会議 (COP10) が開催された。採択された「愛知ターゲット」では 2020 年までの保護地域の世界目標が設定され、各国はこの目標に沿った生態系保全の国家戦略づくりが求められることになった。また、長年にわたる農林業などの営みを通して作られてきた里山のもつ自然環境が大きく評価され、国際組織 (国際 SATOYAMA パートナシップ) が誕生した。里山は様々な生態系が混在する動植物の宝庫であり、絶滅危惧種が集中する地域のうち半数近くが里山に分布するといわれている。トトロのトラスト地も人の営みとの関わりの中で存在してきた里山であり、元々人が利用することで生態系を保全することができていた地域である。今年度取得したトラスト地のうち 11 号地はコナラやアカマツなどの樹種からなる雑木林で、40 年ぶりに復元された北野の谷戸田んぼの北側の斜面に位置し、湿地をはさんだ向かい側には現在は竹で覆われた 7 号地がある。今後は谷戸全体を見据えた適切な管理作業により豊かな植生が期待できる。11 号地の植生については川越が植生調査の結果をまとめ、管理方針への提言を行う。

1997 年より行っている北野の谷戸自然環境調査については、今回は水田として復元した後ののはじめての調査結果である。水田が行われていた当時の水田の形を生かして無農薬、無化学肥料、冬季灌水により稲作を行った結果の報告である。関口が植生、水生生物の調査をまとめ、堀井が鳥類調査の結果を紹介する。

本報告書には報文として砂川流域ネットワークの椎葉氏より「砂川・不動橋河岸林の保全活動とその意義」を提供していただき、掲載した。市民による砂川の清掃活動や行政への要望など長年にわたる砂川流域ネットワークの地道な活動が、不動橋河岸林の一部とはいえトラスト地取得に結びついたことは市民活動にとっても大きな意味がある。新河岸川流域では砂川のように現存する天然河岸は非常に少なく、生物多様性の豊かな河岸林の保全は河川環境保全のモデルケースになると思われる。今後は盗掘の危険性を孕む希少種の保全が課題であり、市民の意識向上が望まれる。

謝辞

北野の谷戸の調査では、2007 年以来、継続的な調査のために谷戸に立ち入ることを快諾し、調査に協力して下さった北野の谷戸の地権者の方に感謝を申し上げます。